

第6回分科会講演会（水工系）

1. はじめに

当部会では、昨年6月以来、定期的に専門部会を持ち、河川構造物の耐震設計・津波・洪水防災等について研究・ディスカッションを行ってまいりました。本講演会では、これらの成果を踏まえつつ、近年本道内外で発生した地震災害に対してどのような技術対応がなされ、どのような課題が残されているのかといった観点で、以下のプログラムで講演会を開催いたしました（参加者70名）。

日 時：平成8年4月10日(水) 13:30～16:00

場 所：かでの2.7 520 ルーム

テーマ：

I. 地震津波特性と防災対策について

① 津波災害特性について

開発土木研究所 環境水工部長

水野雄三氏

② 後志・檜山高潮対策事業の概要について

北海道土木部河川計画係長

野坂俊夫氏

II. 阪神淡路大震災の復興計画における河川の役割

パシフィックコンサルタンツ(株)

震災復興部 高尾浩氏

2. 部会長のあいさつ

講演に先立って、当専門部会の部会長である瀬川明久（建設部門・北海道開発局石狩川開発建設部）より、これまでの活動経過報告と各講演者の紹介が行われました。また、今後、各専門部会と連携を図り、総合的な防災対策の体系化に寄与することの出来る新たなテーマを選定し、活動を継続して行くという活動方針が述べられました。

3. 水野雄三氏の講演

水野氏からは以下の3点に絞って、講演がなされました。

① 津波災害の特徴

断層運動に伴う地震（プレート境界型地震）に起因する津波の一般的な性質。北海道南西沖地震で発

生した津波に関する解析と、これをもとに作成されたシミュレーション画像の紹介。

② 北海道南西沖地震・日本海中部地震の災害の特性

③ 今後の津波対策

地震を想定し、そこから発生する津波を予測する手法。津波エネルギーを低減させ、被害を少なくしたり、避難する時間を確保することを目的とした、港湾・海岸施設計画の紹介。

4. 野坂俊夫氏の講演

野坂氏からは以下の3点に絞って、講演がなされました。

① 北海道南西沖地震の被害状況の概要

② 奥尻島の復興について

津波と火災で消滅した青苗地区、津波で集落が壊滅した初松前地区と稲穂地区のまちづくりビジョンと現段階。

③ 後志・檜山沿岸高潮対策事業の概要と現段階

以上、①に関しては写真や図表、②③に関してはイメージパースを多用して、わかりやすい説明がなされました。

5. 高尾浩氏の講演

高尾氏からは「震災は忘れた頃にくるわけではない」というサブタイトルで、特筆すべき地震は全国的に見れば5～10年の間隔で発生していることに警鐘を鳴らした上で、今回の震災をくぐって明らかとなった、阪神間の河川の状況と問題点について、現地調査・継続的なモニタリングに関わった立場から述べられました。また、震災復興計画の中で期待されている河川の果たす役割について、兵庫県や神戸市の計画をもとに紹介いただきました。

6. おわりに

当専門部会では、本講演会を平成7年度活動の集大成と位置づけ、本年度からは、北海道技術士センターとしての組織的な緊急時対応の具体化を見据えた形で、研究を継続して行きたいと考えています。

（文責 水工系部会 柴田 悟）